

真白き富士の嶺

(七里ヶ浜の哀歌) 明治四十三年

三角錫子 作詞 インガルス 作曲

一 真白き富士の嶺 緑の江の島 仰ぎ見るも

今はなみだ 帰らぬ十二の 雄々しきみ魂に

捧げまつる 胸と心

二 ボートは沈みぬ 千尋の海原 風も浪も

小さき腕に 力もつきはて 呼ぶ名は父母

恨みは深し 七里が浜辺

三 み雪は咽びぬ 風さえ騒ぎて 月も星も

影をひそめ み魂よ何処に 迷いておわすか

帰れ早く 母の胸に

間奏

四 み空にかがやく 朝日のみ光り 暗にしずむ

親の心 黄金も宝も 何しに集めん

神よ早く 我も召せよ

五 雲間に昇りし きのうの月影 今は見えぬ

人のすがた 悲しき余りて 寝られぬ枕に

響く波の 音も高し

六 帰らぬ波路に 友よぶ千鳥に われも恋し

失せし人よ 尽きせぬ恨みに

泣くねは共ども

きょうも明日も 斯くてとわに

